



わかたけ通信

10がっ

～熱海市立第二小学校 通級指導教室だより～

令和5年9月27日 文責 女川

わかたけ教室の玄関前に、今年もどんぐりがぼんと落ちる季節になりました。今年は夏が長かったですが、着実に秋が近づいていることを感じます。秋は過ごしやすい気候ですね。わかたけ教室にやってくる子どもたちは、学習に意欲的に取り組んでいます。

これからは、寒暖の差が大きくなってきて、体調を崩しやすい時期になります。健康管理に注意して元気に過ごしていきましょう。10月もご支援よろしくお願いいたします。

☆10月の休みの予定

12日(木) 女川：午後 18日(水) 午後

31日(火) 終日

※予定の変更は、個別に連絡させていただきます。



☆親子わかたけ教室が始まります

別紙にて、日時をお知らせしましたので、ご確認をお願いします。子どもたちの指導時間に予定させていただいています。お忙しいとは思いますがご協力をお願いします。

☆後期学級費の納入についてお願い

通級指導教室の指導充実のために、学級費を納入していただいています。後期の会計をピンク色の封筒に入れて、ご提出ください。前期分未納の方は、1年間分納入してください。よろしくお願いします。

《ABA（応用行動分析）では行動に注目 行動の理由は主に4つ》

ABAでは、人の行動と環境の関係に焦点を当てて、困った行動を解消します。

子どもが、何か困った行動を取ったとき、とっさに「制止する」「叱る」という人は多いでしょう。しかし、そうした対応はあくまでも応急処置。そのときはおさまっても、別のときにまた同じことを繰り返す……ということになりがちです。

一方、ABAでは、行動には必ず理由があると考えます。そこで、行動を起こすまでの状況などをよく見直して、行動を起こさなくても済むように調整していきます。我慢させる、無理矢理やめさせるのは簡単です。でも、行動の理由に対応しない限り、困った行動は起こり続けます。

遠回りのようでも、「なぜ、そのような行動をするのか」を考えることは、対応法を考えるうえでかせないものです。

出版：ナツメ社 小笠原恵 加藤慎吾：著「発達の気になる子の「困った」を「できる」に変える ABAトレーニング」より

ABAでは、行動の理由は4つに分けるそうです。④の感覚刺激は、自分だけで完結できる行動のため、周囲からは理解されにくいかもしれません。本人が「気持ちいい」感じていれば、本人にとっては十分意味のある行動なのだそうです。

● 行動の理由

周囲の人とかかわる中で出てくる気持ち

① 注目の獲得

自分を見てほしい

自分を見てほしい、声をかけてほしい、そばに来てほしい、認めてほしいなど、周囲の人の注意を引きたいという気持ち。

② ものや活動の獲得

あれがほしい

あるものを手に入れたという気持ち。形のあるものに限らず、「体を動かしたい」「歌を歌いたい」などの活動も含まれます。

③ 逃避・回避

やりたくない

いやなことを避けたいという気持ち。ただし、「勉強をやりたくないから掃除を始めた」など、単に「やらない」だけでなく、代わりにほかの行動をとるなどわかずにいる場合もあります。

自分だけで感じる気持ち・感覚

④ 感覚刺激

気持ちがいい

その行動自体や、それをしているときの感覚が好きという気持ち。行動自体が目的のため、周囲の人のかわりが必要なく、自分だけで完結できるものであることが多い。

プラスα

やる気は「行動の理由」にはならない

「できないのはやる気がないからだ」とよく言いますが、やる気のあるなしは行動の理由とは別のもので、やる気を引き合いに出すのは、本人を責めることになりやすいので気を付けましょう。

